

序 文

公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会（水コン協 AWSCJ）は、昭和56年に発足し、昭和60年に社団法人へ、平成30年4月には公益社団法人となりました。

当協会の目的は「上下水道に係わるコンサルタントの資質向上と育成を図り、上下水道の発展と持続に貢献する」ことであり、人材育成と上下水道を通じた社会貢献が重要なミッションとなっています。

令和7年には、新ビジョン「AWSCJ Vision 2025-2035」を策定し、コンセプトとして「地域社会の持続を支える水インフラマネジメントの実践」を掲げました。また、本ビジョンでは、「水インフラマネジメントの実践」をスローガンに、上下水道の専門技術者集団として、知識・経験を活かして地域社会の持続の確保に貢献するとともに、上下水道マネジメントに主体的に関わる姿勢を明確にしました。

能登半島地震や豪雨災害、埼玉県八潮市における道路陥没事故をはじめ、各地での上下水道施設の老朽化に伴う事故等の発生を受け、早期の水道・下水道における災害対策と老朽化対策の重要性が一層高まっています。水インフラマネジメントの実践には、平時から維持管理業者、施工業者、メーカー及び学識経験者等の関係者と連携し、点検・診断・更新・耐震化・危機管理を一体的に進めることが不可欠であり、分野横断型の幅広い視野が求められます。

また、令和6年に水道行政の大部分が国土交通省へ移管され、水道・下水道の連携による水インフラの持続性向上、防災・減災体制の再構築、水の官民連携（ウォーターPPP）やDXの推進、さらには脱炭素化や持続的社会的実現に向けた資源循環、農業分野への下水道資源利用等の推進が求められています。

これらの課題解決には、総合的かつ戦略的な事業計画の立案やDX技術導入等に関する事業者への支援が必要です。そのため、水コンサルタントには一層の重要な役割と責任が求められており、同時に人材育成においては資質向上が喫緊の課題となっています。

当協会では、昭和61年度から技術・研修委員会を中心に、会員による技術研究成果をとりまとめてきましたが、今回、令和7年度技術報告集（第40号）を発行する運びとなりました。今後も、水コンサルタントとして上下水道をとりまく諸課題への対応を着実に進め、品質向上に向けた人材育成、そして技術開発の促進を図るため、技術報告集の提供と発表の場である技術研究発表会の一層の充実に努めてまいります。

引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和8年3月

公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会
会 長 中西 新二